



雑草防除から始めるカメムシ対策！！

かねてより JA こまち管内で問題となっているカメムシ被害に関して、TAC 通信にてカメムシ斑点米被害軽減を目指し情報を発信してまいりましたが、依然として防ぎきれていないのが現状のようです。カメムシ被害は雑草の発生が原因となることが調査でわかっています。雑草の発生が多いと薬剤散布だけではカメムシ被害を防ぎきるのは難しくなるので、春から畦畔を含めた除草を徹底しカメムシが生息出来ない環境にしましょう。

— 除草剤の効果を十分に発揮させるために・・・ —

適切な水管理

除草剤の散布



適切な水深の確保

粒剤: **3~5cm**
 フロアブル剤、顆粒水和剤、ジャンボ剤、少量拡散型粒剤: **5~7cm**

浅水や圃場の均平が悪いと

- ・田面露出部分では効果なし
- ・浅水部分では効果が不足
- ・凹部分では薬害の恐れ

- ・除草剤を外に出さない → 7日間の止め水管理
- ・散布後の補植 → 処理層の破壊により、除草効果低下

除草剤を上手に使う

初期剤田植同時+一発処理剤による防除体系が有効的ですが一発剤の散布のタイミングがポイントです。

近年の温暖化や、異常気象による高温で雑草の生育スピードが早まる場合が多いようですので、登録にある使用時期葉齢より**マイナス1.0葉で散布するくらいの方が効果が安定し、残草も少なくなる**と思われます。
 (2.5葉であれば1.5葉で使用する)

ノビエの葉齢	発生始	1.0葉期	1.5葉期	2.0葉期	2.5葉期	3.0葉期
秋田市	5~8日	6~10日	9~13日	11~17日	14~20日	17~23日
大仙市	7~11日	10~14日	12~17日	14~19日	14~19日	19~23日

気温の経過により生育は変動しますが、早い年は…
代かきから10日でノビエは2.0葉期に
 後発雑草を待って除草剤散布を遅らせると、初発の雑草は2.0葉期を過ぎてしまい手遅れとなり残草してしまっているケースもあるようですので
代かきから10日以内一発剤散布を推奨